

ごみゼロネット準備会（第3回）議事録

開催日： 2008年（H20年）10月6日（月）10:00～12:00

場所： ウエスト（新小金井駅前）

出席者： 加藤、市原、大橋、加賀谷、伊藤、桐生（作成）

議題：

1. イビデン亜臨界水ごみ処理設備見学の自由討議及び炭素化設備の見学に関する調整（内容省略）

2. 加藤氏より「処理方式の比較」の説明

焼却／加水分解A社／加水分解B社／炭素化施設／超高速堆肥化＋焼却／発酵処理＋焼却、の6方式について面積／経済性／技術・性能／安全性／再資源化性／環境保全性／近隣住民への迷惑／住民の協力／その他、について詳細に検討された資料をもとに綿密に説明された。

3. 桐生より「イビデン亜臨界水ごみ処理設備見学記」の説明

出席者にハードコピーとして配布、説明した。

大橋氏が不要部分を削除し、必要部分は加工して「ごみゼロネット」に掲載する。

4. 自由討議等での注目すべき意見

● イビデンに関して感心したのは、BOD60,000～80,000ppmという超高濃度液体を現実処理して見せてくれ

たことである。素晴らしい高度技術である。（加藤）

● イビデン方式で弱点があるとすれば、ミス或いは故意に共生系菌叢処理方式の微生物を絶滅できる薬品を混入

される場合であろう。pH中性で亜臨界水でも分解できず、微量でも全微生物を死滅させることができる。この場合は処理槽をからにして、新しく微生物を入れねばならぬ。（加藤）

当地の生ゴミには各種重金属等が入っている訳でないから、イビデンのような高度処理微生物菌叢は必要ないと思う。三鷹市の下水処理場の余剰汚泥を貰ってきて投入すれば充分ではないか。（桐生）

● 市役所や市議会議員の中に、亜臨界水は高圧なので危険だと主張する人たちがいる。彼等に対して理解を求め

る論理を準備しておく必要がある。水素を燃料とする燃料電池自動車などでは1000気圧以上のガスボンベを積んでいるのに、理解がなさ過ぎる。（加藤）

● フジムラインベントの亜臨界水処理設備納入実績は他にはないか。（桐生）

食品会社の小栢屋に納入・稼働している。他のメーカーにも幾つもの納入・稼働実績を挙げることができる。現在では亜臨界水処理は民間では珍しいことではない。亜臨界水に近い圧力の「高圧染色法」は長年にわたり、全国的に実績がある製造方式である。（加藤）

● イビデンが本方式を普及させるために、標準コンテナサイズに亜臨界水処理システム一式をパッケージ化して、各自治体に持ち込んで、現実に生ゴミを処理実演すれば効果的と思う。実用機でもパッケージ化した数ユニットを並行設置して使用することも考えられる。（桐生）

以

上

次回打合せ 日時：11月24日（月）10:00～12:00 / 場所：ウエスト

11月10日（月）10:00～12:00 萌木ホールでの加藤氏の講演会の後に意見交換会を持つことも考えられる。

それまでの意見交換はメールリングリスト上で行う。

